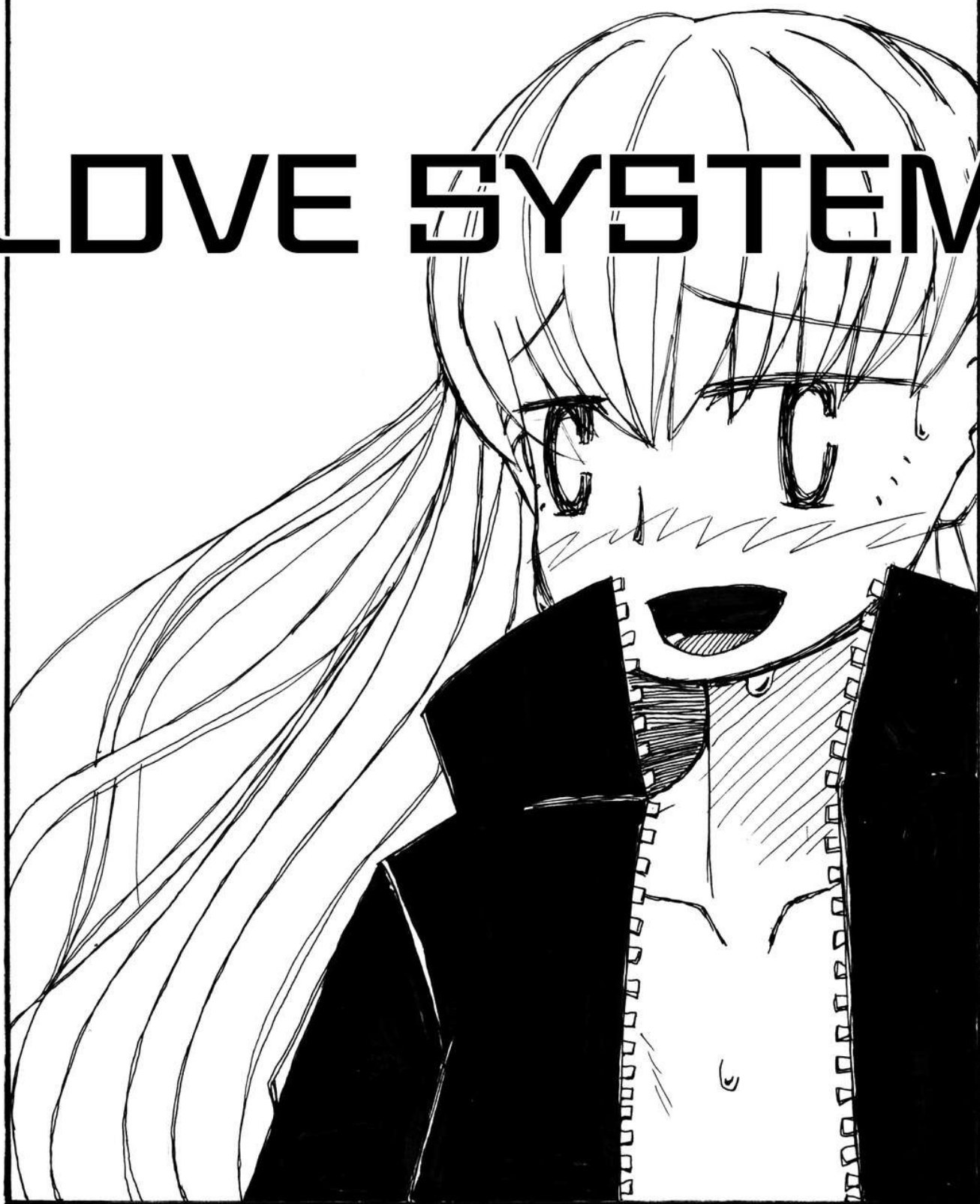
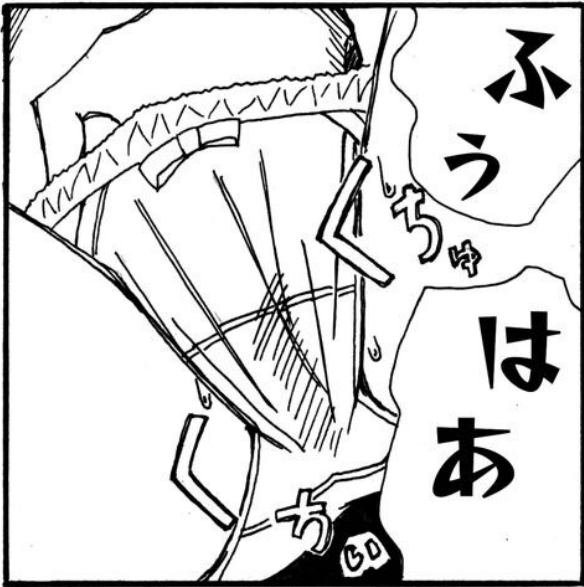
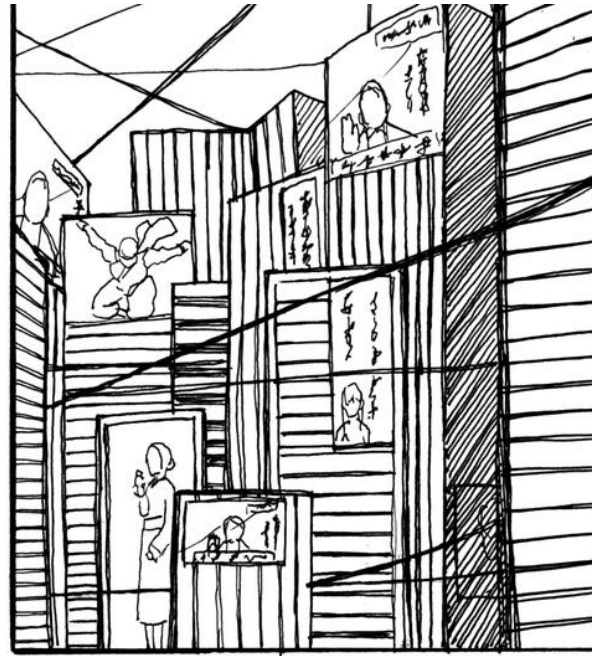
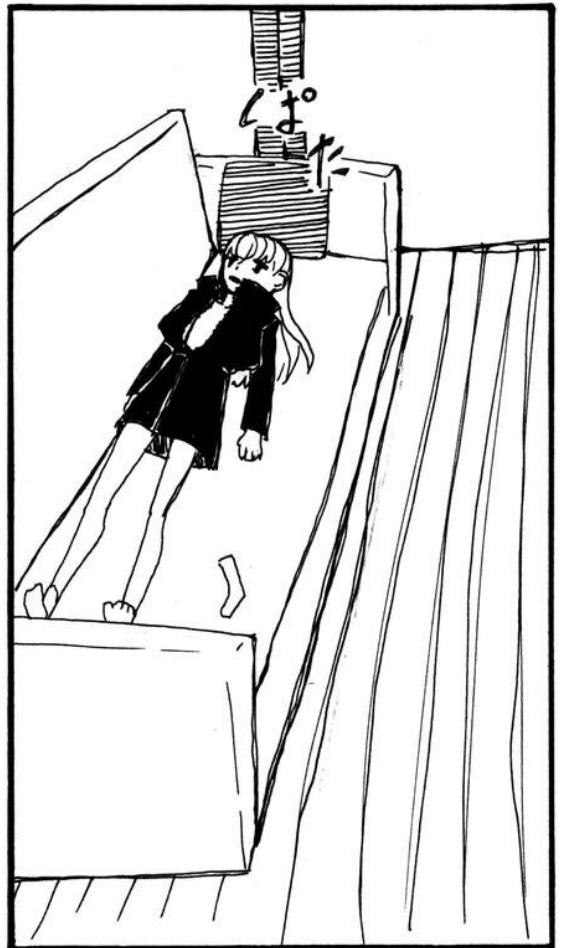
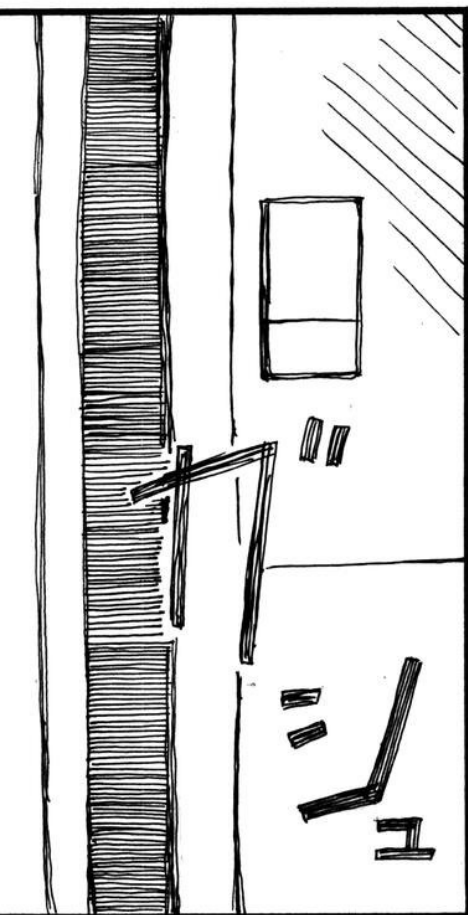
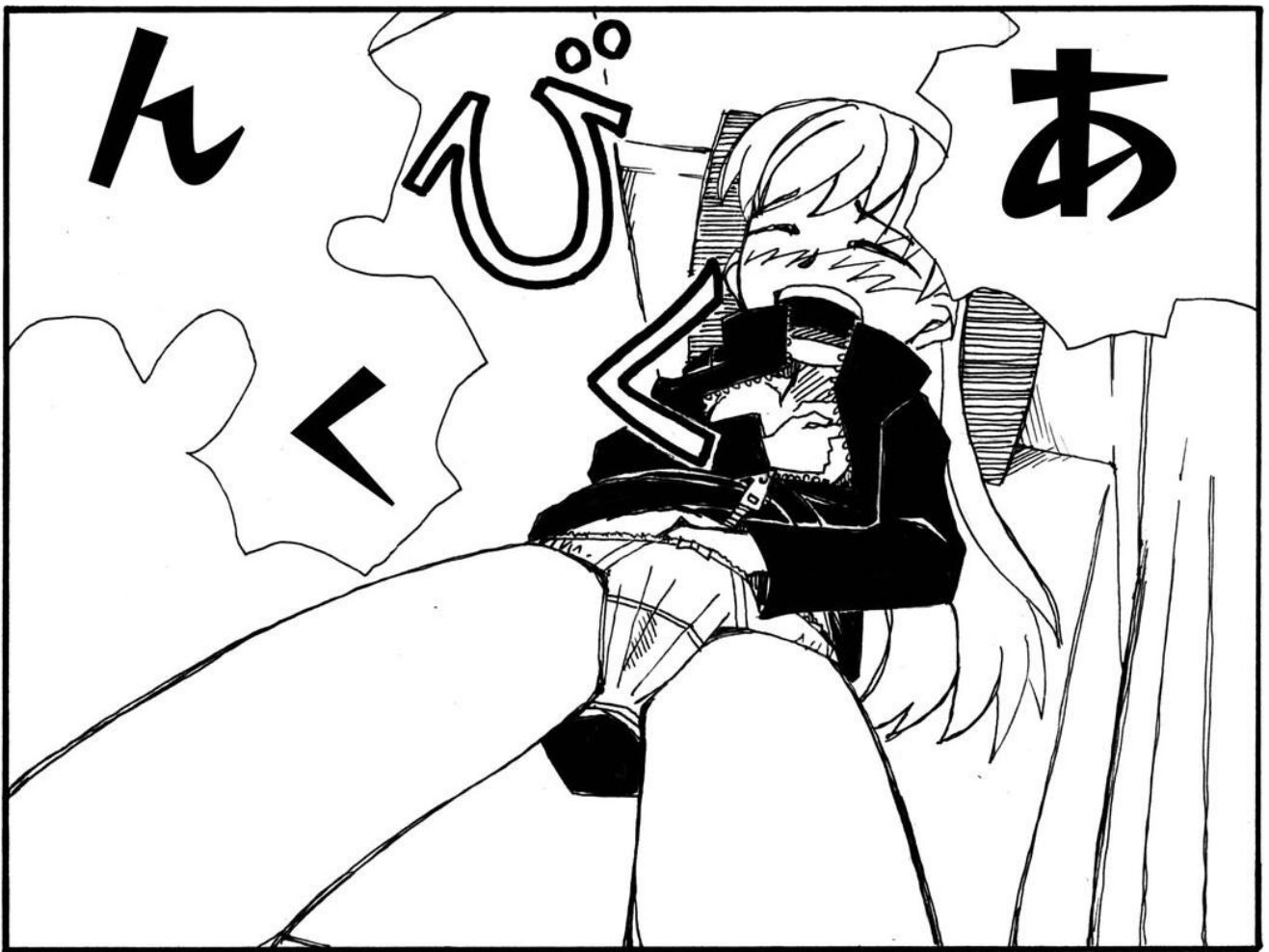


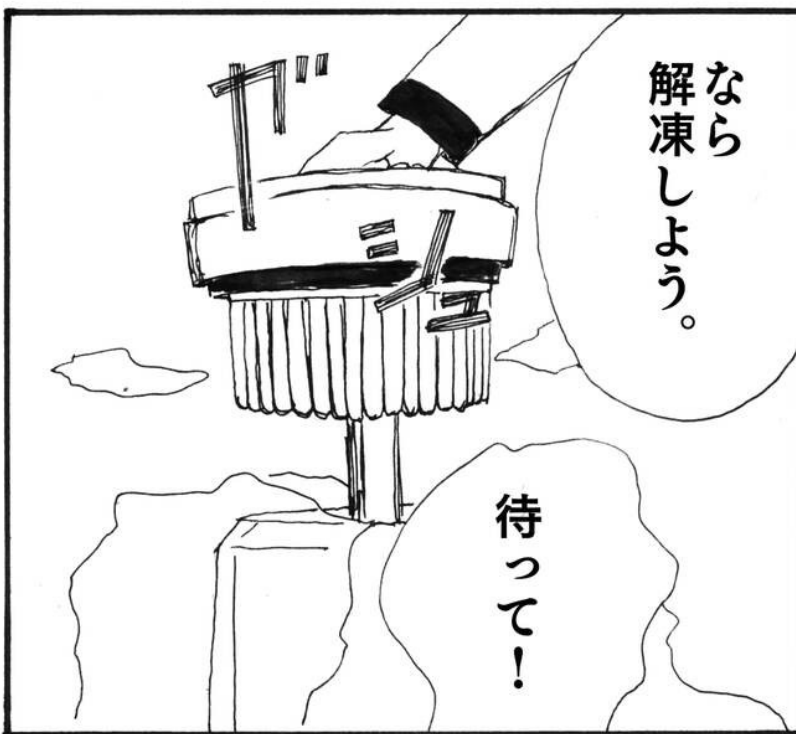
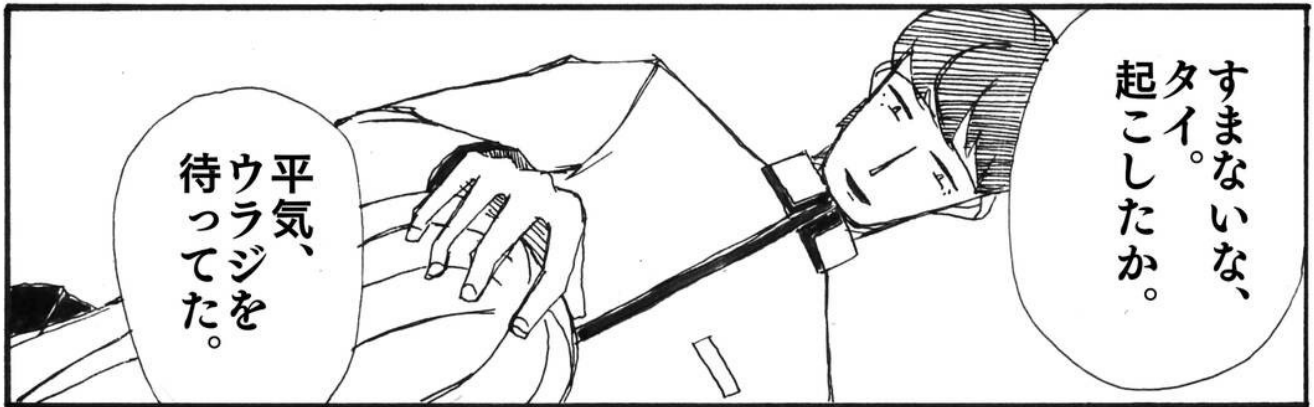
# LOVE SYSTEM

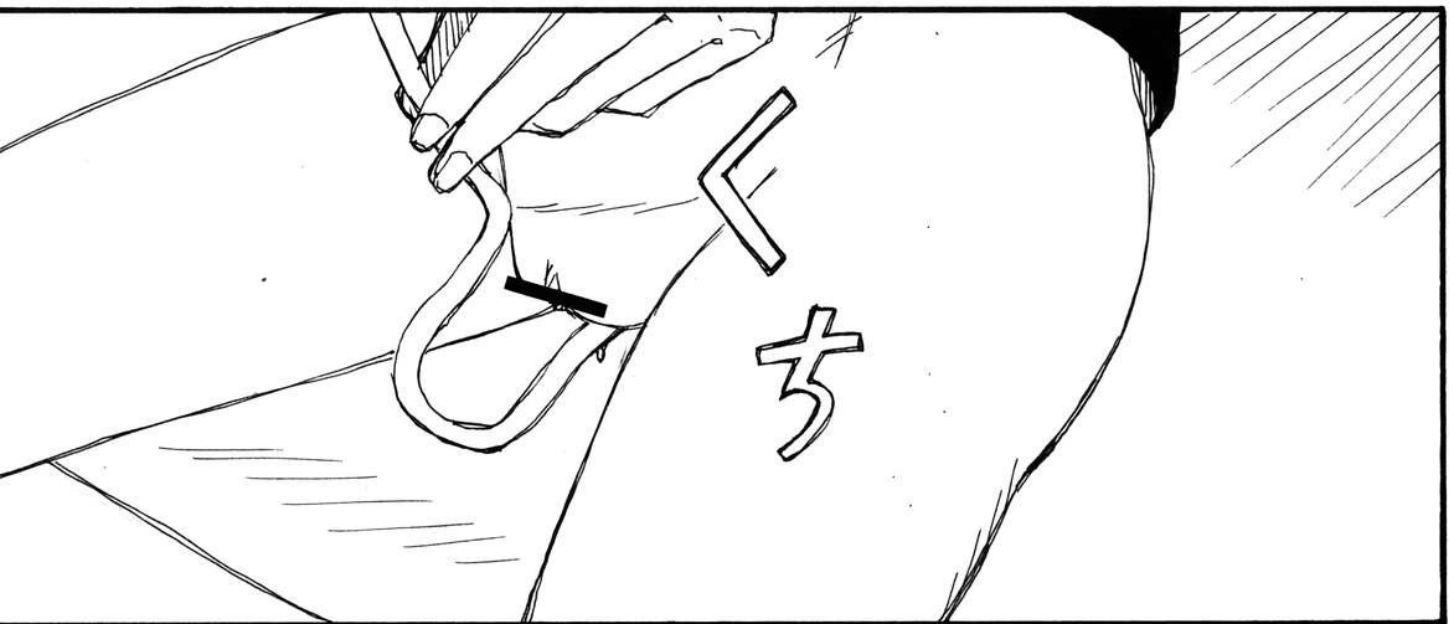


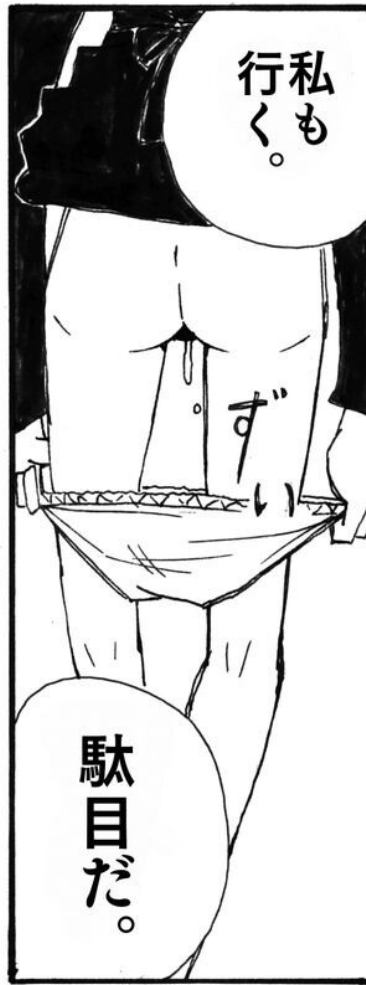
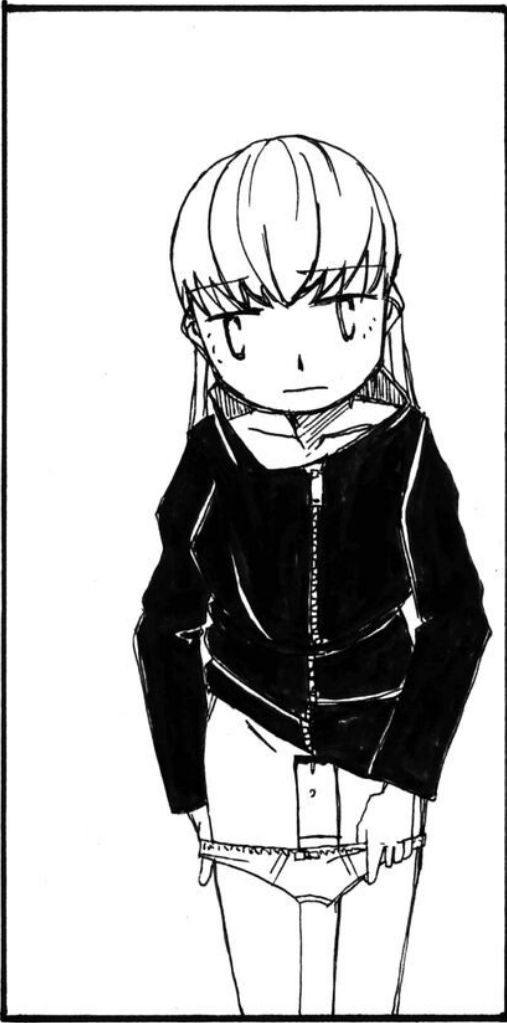
灰田曾太朗











私も行く。

駄目だ。



しばらく家を空ける事になる。

え？

嗣平で一月ほど仕事を手伝う。

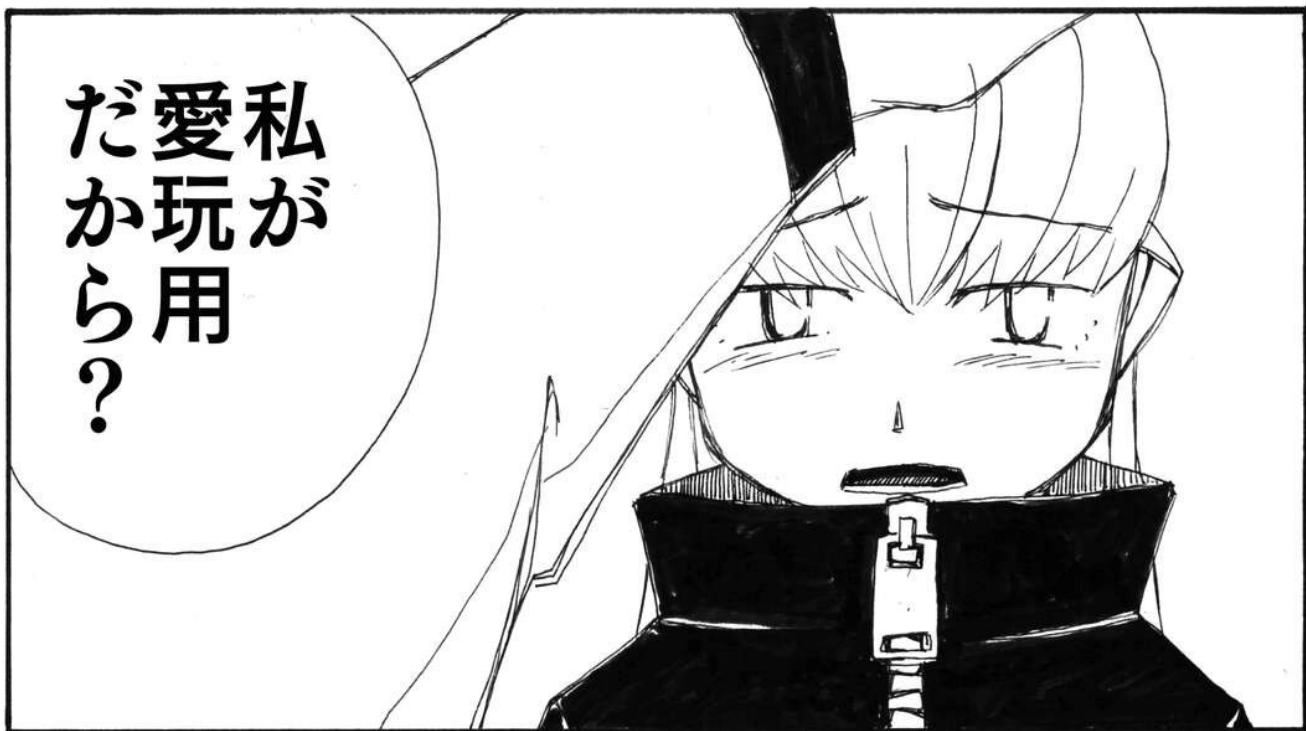
ちか



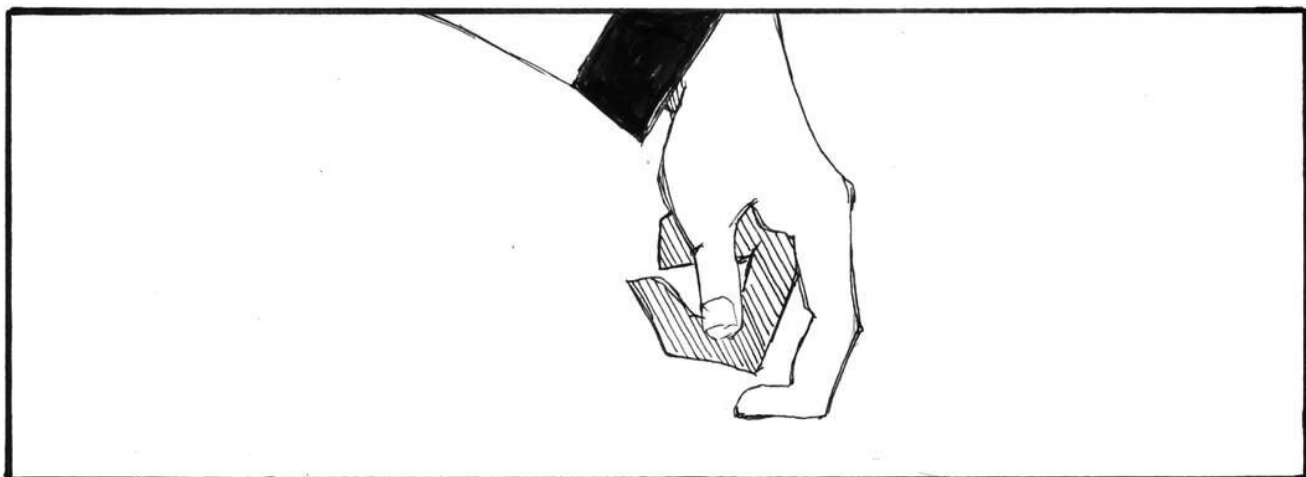
必要な分は準備していく。

料理も洗濯もできる。食材は毎週届く。

全部一人でやれるな？



私愛が  
用から？



そうだ。

気を付けてね。

すまないな、  
タイ。

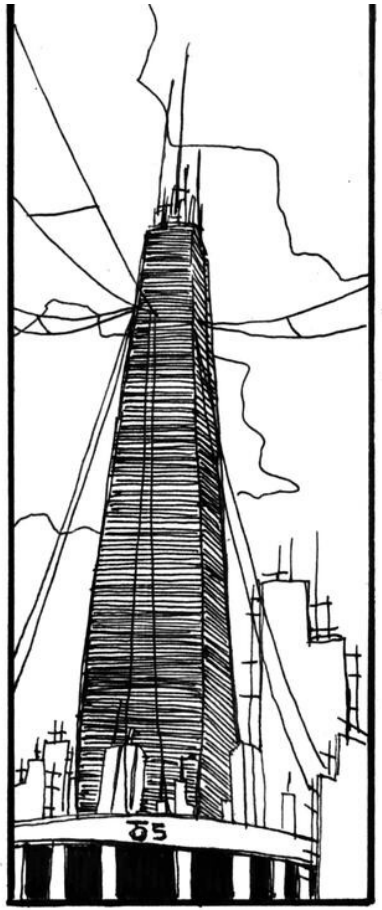
うん。  
じゃあね。

タイは旧式の  
愛玩用作為体だ。

定期的に核へ精子を  
取り込まないと、  
細胞分裂できず、  
形象崩壊する。

飽きて、捨てられたの  
だろう。捨てられたの  
崩れかかっていた。

見捨てる事は  
出来なかった。

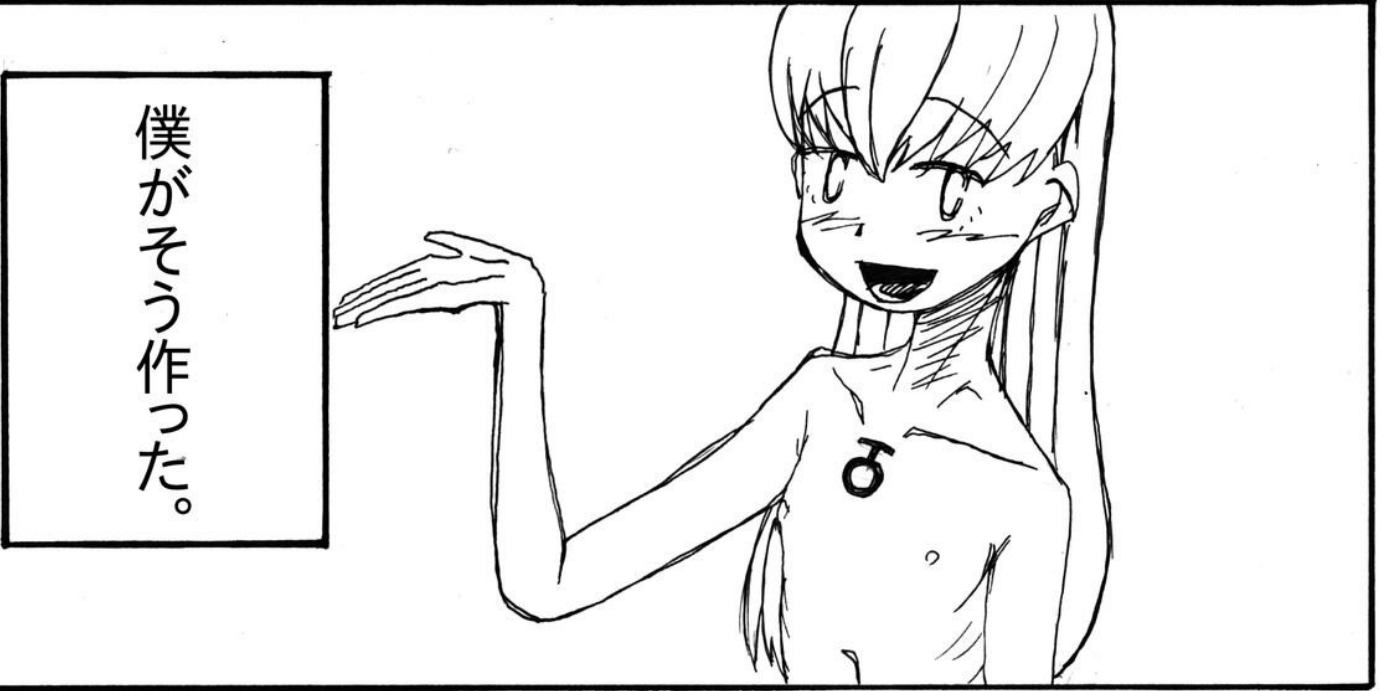


トス、  
ようこそ、  
ウラジ博士。

彼女達作為体は  
誰であろうと  
愛した。



わざわざ  
すみません、  
博士。

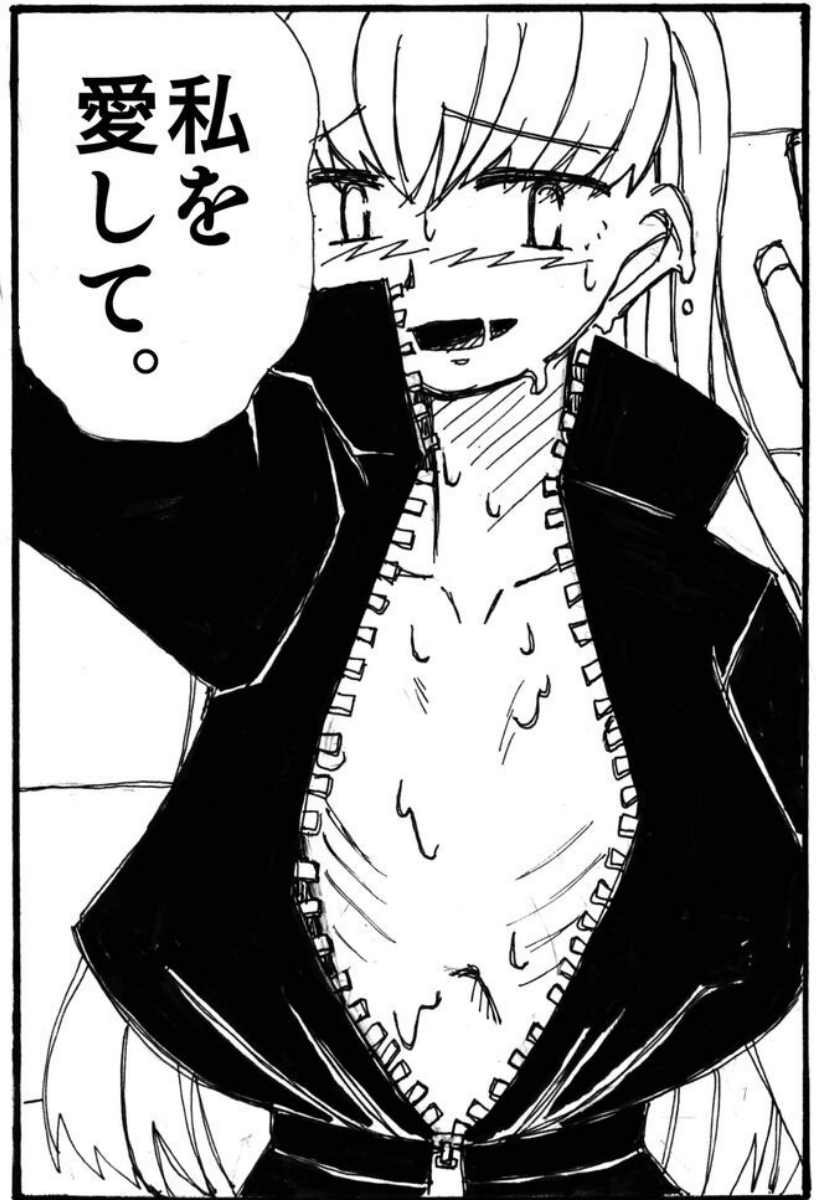
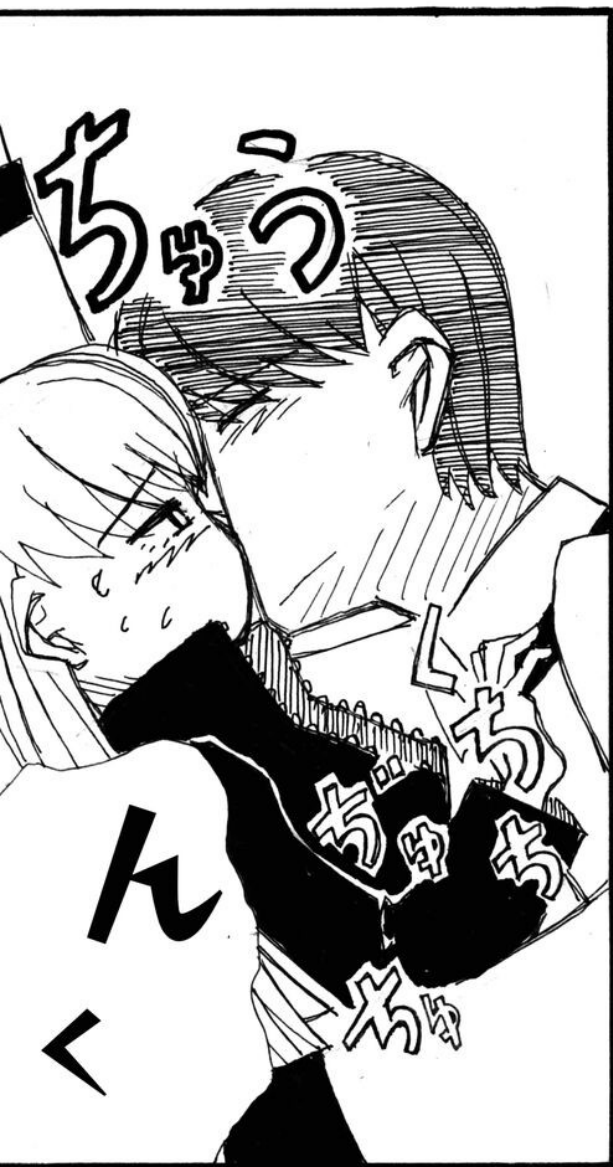
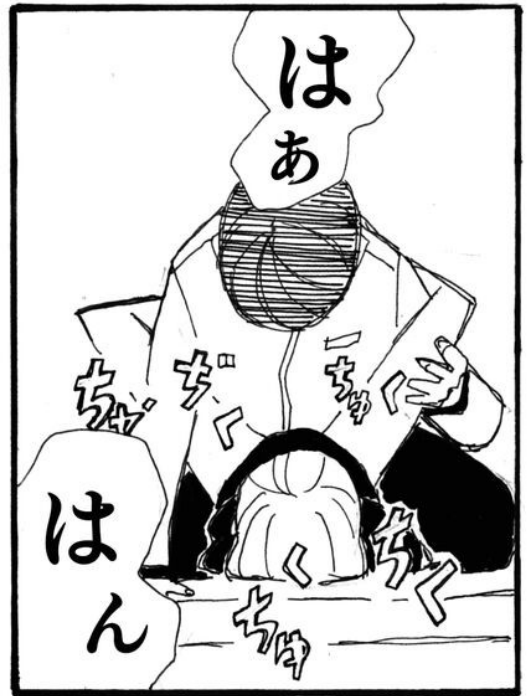


僕がそう作った。









とっくに  
愛してた!!



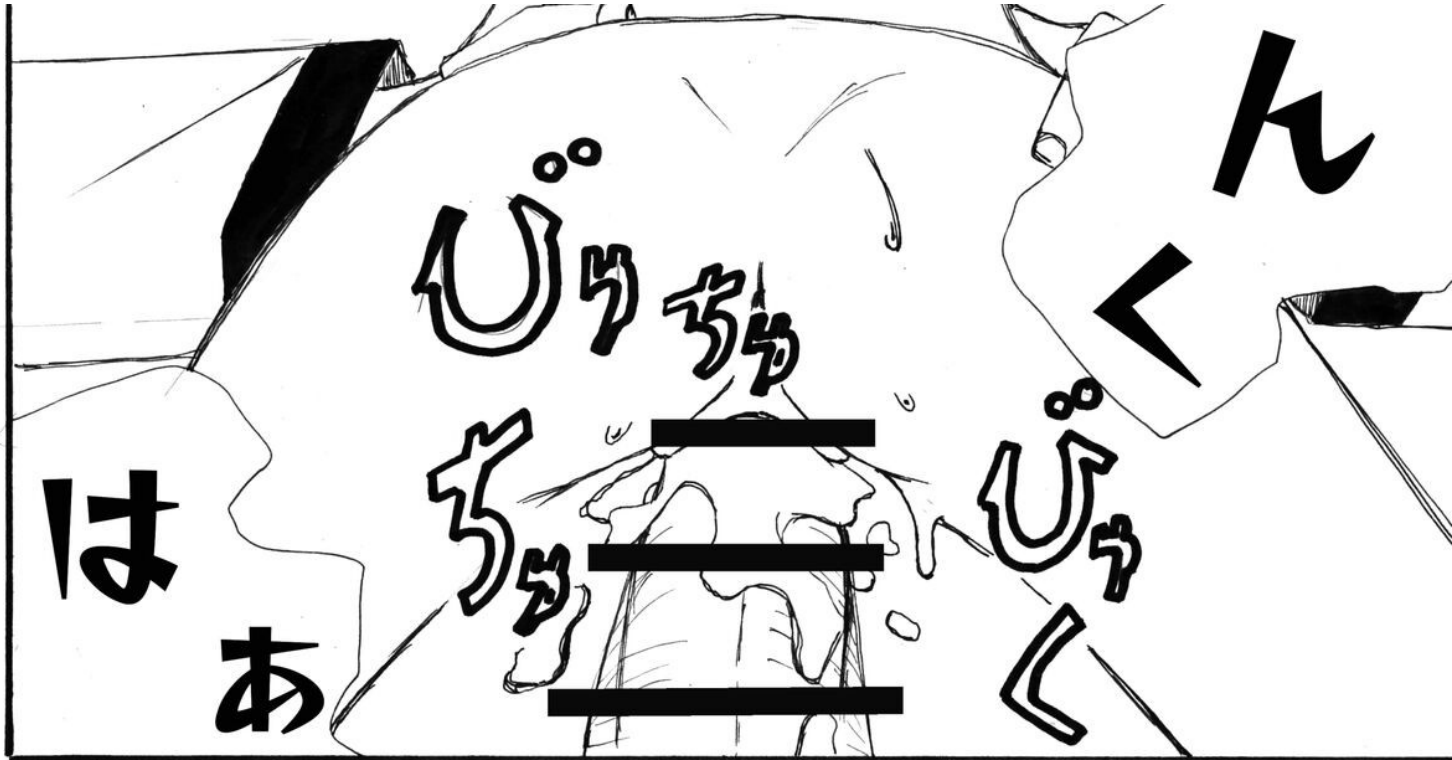


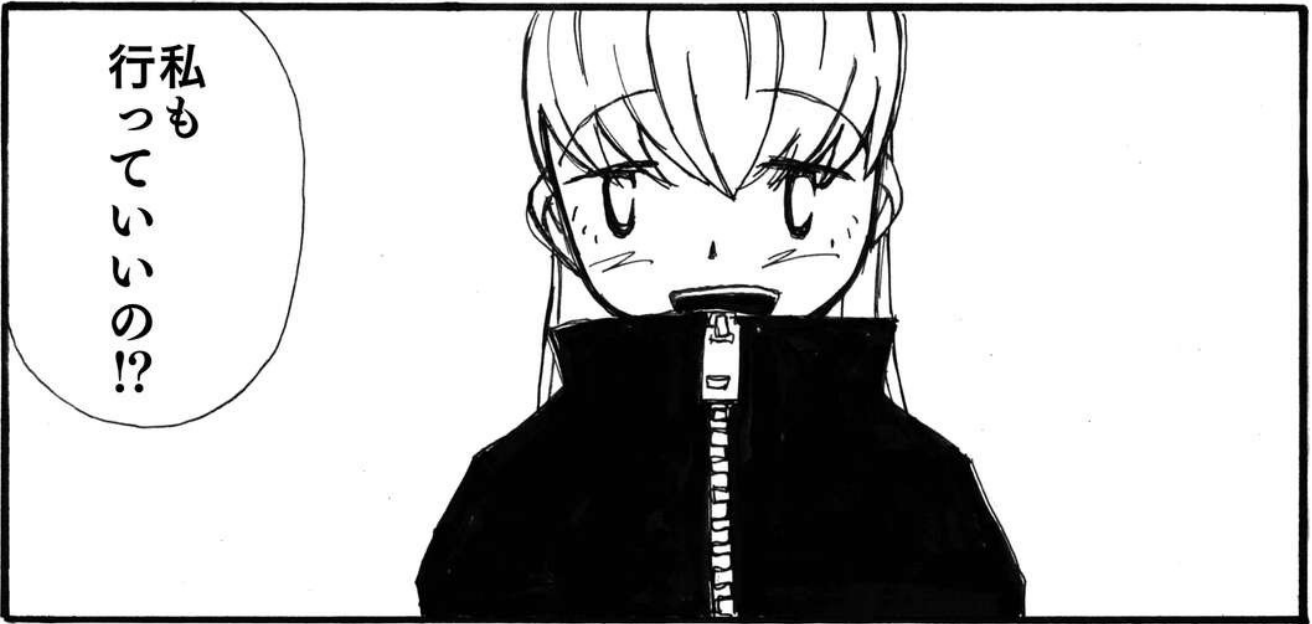












私も  
行っていいの!?



さあ、



いっそ  
引越そう。